

航空書簡は本当に安いのか？

杉原 正樹

航空書簡(エログラム)は均一で「割安な料金」とされる。第二次大戦中の 1943 年、英國で英米間の航空書状料金より安い 6d (ペンス)で発売されたのが始まりである(英軍捕虜向け専用は 1941 年)。戦後、アメリカなどでも採用が広まり、日本も 1949 年に最初の航空書簡「雁 38 円」を発売した。以後、料金や印面デザインの変遷を経て、現在では 90 円の「鶴鳩型裁文」航空書簡が発売されている。

当初は異物の封入や切手加貼ができず(料金差額加貼を除く)、別配達(速達)や書留など特殊扱いもできなかったが、徐々に緩和され、現在では 25g 以下の紙のような「薄い物品」の封入ができるほか、別配達(速達=現在は制度自体が廃止)や書留の扱いもできるようになった。

日本郵政は、記載面積が「はがきの 3 倍もあり、割安な料金」で「世界各国へ航空便」で差出可能と説明している。では本当に「割安な料金」なのだろうか。結論から言えば、半分正しく、半分は疑問点がある。はがきに比べれば割安ではあるが、過去には航空書状料金が航空書簡より安い時期も多々あったからである。

現在でも第 1 地帯(アジア・西太平洋)向け航空書状料金は 25g 迄 90 円で、航空書簡と同額である。書状は航空書簡をはるかに上回る情報量が送れ、1 ミリ以下の中厚さのある物品も封入できる。封筒、便箋の入手コストがかかる短所はあるが、送付上の自由度は遙かに高い。

ここまで書くとこれから何を言わんとするかは想像ができると思う。

航空書簡が航空書状より割高な期間の、国・地域宛の実遁が欲しくなるのは収集家の性となる。料金を調べるのは日専あたりを参考すれば簡単なのだが、いざ実物の入手となると言うは易し、の状況になる。特に、初期の雁 38 円航空書簡を筆頭にその後の 45 円時代まで、航空書状より航空書簡料金が高い諸国宛実遁がなかなか見つからない。対象国は東アジア(主に第 1 地帯)であるが、相手国との経済的・人的結びつきは戦争被害の記憶が生々しいこともあります。現在よりはるかに小さい。古くからの国際貿易港であった香港宛を含めても、郵便物の郵趣界還流があまりなされていない点も原因であろう。

15 年以上も前、台湾にも住居を持つ収集家に 1950 年代の台湾宛航空書簡を切望したところ、『台湾宛は料金が高いので台湾でもない』(筆者の独り言「アイチャー、知ってんだ。安くは買えないな」と言われ、「松ちゃん」(日本切手社の故松島忠義氏)のところにある靴箱一杯の航空書簡ストックを探しても、東アジア宛は一通もなかった記憶がある。大阪のジャパンスタンプ即売品でもやはり同様であった。主なオークションでも航空書簡は 90% 以上が消印を主体とした米国宛であり、次いで欧州宛で、第 1 地帯宛の出品は皆無に近い。ネットオークションの e-Bay やヤフオクでも航空書簡料金が割高な時期の国・地域宛は殆どなく、稀に出てもそれなりの値段になっている。出てくるのは 1960 年代以降の航空書状と航空書簡が同一料金の時期を集めるのが精一杯である。一時、ロータスフィラテリックセンター(川崎市)が主催するオークションで、本人が東南アジアで買い集めた 1980 年代のタイやベトナム宛航空書簡の出品があったが、現在ではそれも出なくなってしまった。料金体系の隙間を狙っている収集家は、様々な機会を通じて“割高料金時期の航空書簡”収集に励んではいる。思うような収集結果が出ていないのは共通し

ているが、日常的な努力と心掛けを続けなければ入手は難しいのである。

どの時期に、どこの料金地帯(宛先)が航空書状料金より高かったのか、航空書簡発行時期と航空書状料金改定期の期間毎の料金表を掲げてみた。表で分かる通り、書状が安い地域は東アジア宛が主である。朝鮮(韓国・北朝鮮)と琉球宛は特殊事情があり、前者は1961年9月まで、後者は1972年の本土復帰まで常に航空書簡が割高であった。琉球宛航空書簡は、見かける頻度が第1地帯宛より多いことは覚えておいて損はない。なお、東アジアや琉球は気温・湿度とも高く、“熱帯ヤケ”(トロピカルステイン)によって、コンディションの良いものは更に少ないことを考慮する必要がある。

期間	地帯	名宛国・地域	航空書 簡料金	航空書 状料金	対象航空 書簡
1949.3～1949.5	1	琉球、朝鮮、香港、マカオ、台湾 中国本土、フィリピン、タイ	38円	31円	雁38円
1949.6～ 1951.11	1	琉球、朝鮮、香港、台湾、マカオ 中国本土	62円	40円	雁62円
	2	フィリピン、タイ		58円	
1951.12～ 1952.3	1	香港、マカオ、中国本土、台湾	62円	40円	雁62円
	2	フィリピン、タイ		55円	
1952.4～1953.6	1	香港、マカオ、中国本土、台湾	50円	40円	燕50円
1953.7～1959.3	1	香港、マカオ、中国本土、台湾 朝鮮(南朝鮮＝韓国に限る)	45円	35円	鳩45円
1959.4～1961.9	1	アフガニスタン・パキスタン以東の アジア、オセアニア(豪州・NZ)	45円	40円	かり45円
1961.10～ 1966.6	1	第1地帯書状と航空書簡は同額	50円	50円	飛天50円
1966.7～1976.1		安い時期・同額の時期はない	50円	60円	飛天50円
1976.1～1981.6	1	第1地帯書状と航空書簡は同額	100円	100円	鳥唐100円
1981.7～1987.3		安い時期・同額の時期はない	120円	130円	含綏120円
1987.4～	1	第1地帯書状と航空書簡は同額	110円～ 90円	110円～ 90円	孔雀110円 鴛鴦90円
1951.12～ 1953.6	朝鮮	朝鮮(南朝鮮＝韓国に限る)	62／50	25円	雁62 燕50
1951.12～ 1972.5	特別	琉球			常に航空書簡が高い

註:「書状航空料金」は10gまたは25g迄の第1・第2地帯向け料金。

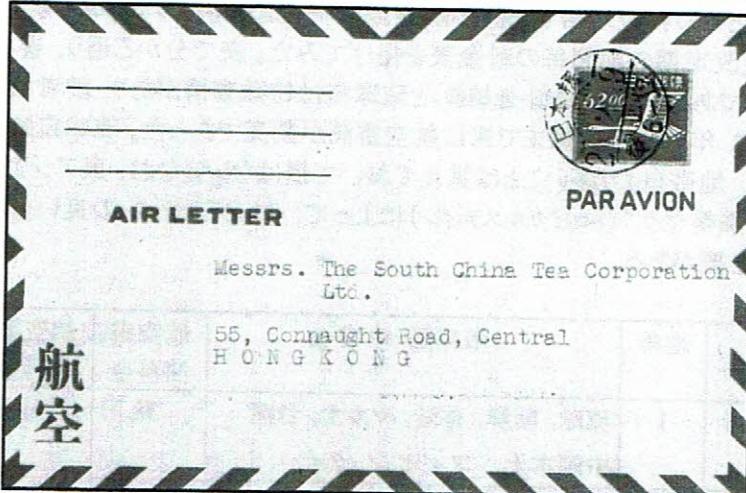


図1：香港宛航空書簡 日本橋27(1952).2.9. (同時期の航空書状より22円高い)

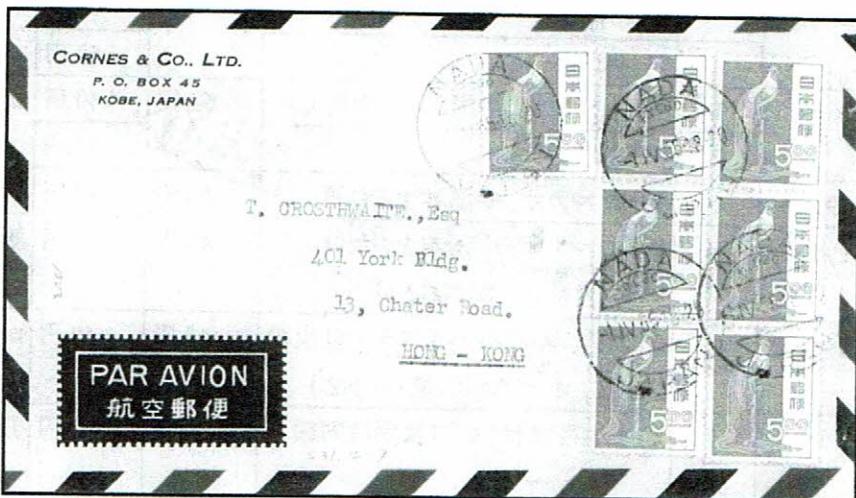


図2：香港宛航空書状 NADA 1955.4.1 (同時期の航空書簡より10円安い)

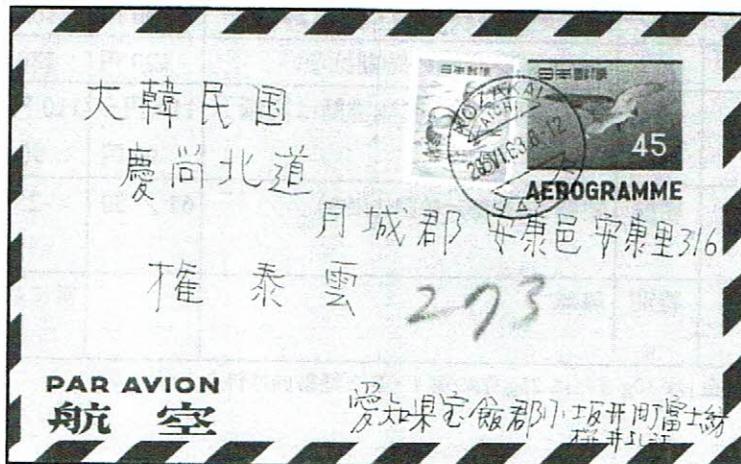


図3：韓国宛航空書簡 KOZAKAI 1963.6.26 (同時期の航空書状と同一料金)